

27D-pm10S

薬学生による地域社会への情報発信 (1) - 明治薬科大学附属薬局における「健康啓発活動」の開催 -

○深野 顕人¹, 寶川 千鶴¹, 中島 正登², 菅野 敦之², 赤沢 学¹, 石井 文由² (1明治薬大・μstream, 2明治薬大附属薬局)

【目的】薬学教育6年制に伴い、5年次の実務実習が充実した一方、6年次にその経験を活かせる場が少ない。そこで、6年生による、地域住民を対象とした「健康啓発活動」を企画・検証したので報告する。当イベントを通し、地域住民に薬局の本来あるべき機能を理解してもらい、薬局が身近で有用性が高い存在となることを目的とした。

【方法】平成26年8月6日(水)、7日(木)に、明治薬科大学附属薬局内の学生スペースを利用して開催した。6年生が主体となり、季節性や話題性のあるテーマについて、ポスターやリーフレットを作成し、地域住民の来局者に対して解説を行った。テーマによっては、ポスターの内容に沿った体験コーナーも設けた。テーマは、「お薬手帳の意義」、「残薬管理」、「小児への薬の飲ませ方」、「熱中症対策」、「家庭用品等の誤飲時の対応」、「食中毒の予防」、「薬局で耳にする専門用語の解説」、「危険ドラッグの注意喚起」の8つである。イベントの来局者全員に、当イベントの感想や、薬局に求めるサービス等を問うアンケートを行った。

【結果・考察】10歳代から80歳代まで、幅広い年齢層の41名が来局した。アンケート結果より、薬剤師による健康相談や、気軽に行える健康検査(血圧測定、視力検査、体力測定等)を求める声に加え、保健健康についての気軽な相談場所がないと感じていることを認識した。また、我々6年生にとって、一般の方々と会話することは、これまで学んだ内容の意義を認識する良い機会となった。

地域住民の保健健康に対する意識の高さから、当イベントのような、薬局側からコミュニティーへの積極的な情報発信は、薬局を地域住民にとって更に身近で有用性の高い存在とすることが期待される。